



1 市学芸員から展示物について説明を受ける小学生 2 市内に残る地震記の一つ「大沢寺十代祐賢の地震記」(大沢寺十代住職である祐賢が約150年前の安政東海地震の体験談などについて記したもの)。過去の地震の古文書や江戸時代の村絵図などを中心に約150点の資料を展示 3 展示物を見学する来場者 4 約300年前の宝永地震、安政東海地震で市を襲った津波の高さである5mの表示板 5 「平成24年度静岡県地域防災活動知事褒賞」を受賞した相良中の防災体験学習の展示 6 市内ボランティア団体による民話や絵本の読み聞かせ 7 市職員が作成した、縦9m、横4mで市内海岸部を2,500分の1で再現したジオラマ。公共施設や道路河川が示され、津波高とともに海拔や浸水域なども表示されている



## 子どもたちが安心して暮らせる環境を



**櫻井勝延** 南相馬市長  
昭和31年生まれ。東日本大震災の被災地の南相馬市で復興の先頭に立っている。被災直後の市の状況をインターネットの動画サイトなどで積極的に訴え、米国のタイム誌から、2011年版「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた。趣味はマラソン。

講演会で被災地の現状や復興への思いなどについて語る櫻井市長

# 備える

南相馬市長に聴く防災講演会  
史料館特別展「地震・津波展」

**7** 万2千人いた人口が一時、1万人に。現在は4万5千人ほどまでに戻ったが、人口が戻らない中で復興は非常に困難。福島県南相馬市の櫻井勝延市長はこう訴えた。東日本大震災で、南相馬市では最大震度6弱を観測、高さ数十メートルの防潮林を越える津波が海岸線から約2キロ付近までの地域を飲み込み、沿岸部を中心に壊滅的な被害を受けた。同市は、加えて福島第一原発事故による原発災害の対応に苦慮している。

**復興** 興に取り組んでいる同市長を招いた講演会が11月10日、いづらで行われた。今後の災害対策のために市内外から500人が訪れた。櫻井市長は被災地の現状などを報告し、「未だに避難生活をしている人も多く課題は山積みだが、自分たちで復興計画を作り、行っていく」と復興への意気込みを述べた。

**11** 月17日から12月2日にかけては、「地震・津波展」が史料館ホールで開催され、2400人が来場した。過去の資料から郷土を襲った地震や津波を学び、今後に役立てようと企画された。江戸時代の地震に関する古文書や地図、東日本大震災の被災地の陸前高田市の映像や写真、市内海岸線のジオラマなどの展示のほか、津波に関する民話の読み聞かせも行われた。

資料には、津波により愛鷹岩まで歩いて行けるようになったことや、地震による山崩れで田んぼが潰れ、年貢(税金)を5年間免除して欲しいという記述もあった。

**防** 災教育の一環でもある特別展には、約800人の小中学生が訪れ、展示物の見学や地震車の体験を行った。地震や津波は、いつ襲ってくるかわからない。そのため、常日頃から災害に対する備えと心構えが必要である。

